



統合をテストする

Cisco Unity Connection と電話システムが正しく連動しているかどうかをテストするには、次の手順を実行します。

いずれかの手順で失敗が示された場合は、必要に応じて次のドキュメントを参照してください。

- https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/15/install_upgrade/guide/b_15cuciumg.html にある『Cisco Unity Connection インストール、アップグレード、およびメンテナンスガイド、リリース 15』の「Unity Connection をインストールする」の章。
- https://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/voice_ip_comm/connection/15/troubleshooting/guide/b_15cuctsg.html にある『Cisco Unity Connection トラブルシューティングガイド、リリース 15』
- このガイドで前述したセットアップ情報。
 - テレフォニー統合をテストする (1 ページ)
 - テスト設定をセットアップする (2 ページ)
 - リリース転送を使用した外線コールをテストする (3 ページ)
 - メッセージを再生する (4 ページ)
 - 管理された転送を設定する (4 ページ)
 - 管理された転送をテストする (5 ページ)
 - テストユーザーを削除する (5 ページ)

テレフォニー統合をテストする

ステップ 1 Cisco Unity Connection Administration の [テレフォニー統合 (Telephony Integrations)] から [電話システム (Phone System)] を選択します。

ステップ 2 設定をテストする必要がある電話システムをリストから選択します。

ステップ 3 [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストで、[テレフォニー設定の確認 (Check Telephony Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] を選択して電話システム統合設定を確認します。

テストが成功しなかった場合、タスク実行結果にはトラブルシューティングのステップが書かれた 1 つ以上のメッセージが表示されます。問題を解決した後に、もう一度接続をテストしてください。

ステップ 4 [タスクの実行結果 (Task Execution Results)] ウィンドウで、[閉じる (Close)] を選択します。

テスト設定をセットアップする

- ステップ 1 Unity Connection が接続されている同じ電話システムに 2 つのテスト内線番号 (電話機 1 と電話機 2) を設定します。
- ステップ 2 着信に応答しない場合に Cisco Unity Connection のパイロット番号に着信を転送するように電話機 1 を設定します。
- 電話システムは、4 回以上の呼び出し音で Unity Connection パイロット番号にコールを転送する必要があります。そうしないと、テストが失敗する可能性があります。
- ステップ 3 Unity Connection Administration で、[ユーザー (Users)] を展開し、次に [ユーザー (Users)] を選択します。
- ステップ 4 [ユーザーの検索 (Search Users)] ページで、テストに使用するユーザーの表示名を選択します。このユーザーの内線は、電話機 1 の内線である必要があります。
- ステップ 5 [ユーザーの基本設定の編集 (Edit User Basics)] ページで、[次回ログイン時に自己登録を設定する (Set for Self-enrollment at Next Login)] チェックボックスをオフにします。
- ステップ 6 [音声名 (Voice Name)] フィールドに、テストユーザーの録音名を録音します。
- ステップ 7 [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 8 [編集 (Edit)] メニューで、[メッセージ待機インジケータ (Message Waiting Indicators)] を選択します。
- ステップ 9 [メッセージ待機インジケータ (Message Waiting Indicators)] ページで、メッセージ待機インジケータを選択します。テーブルにメッセージ待機の兆候がない場合は、[新規追加 (Add New)] を選択します。
- ステップ 10 [メッセージ待機インジケータの編集 (Edit Message Waiting Indicator)] ページで、次の設定を入力します。

表 1: MWI の編集ページの設定

フィールド	設定
有効 (Enabled)	テストユーザーの MWI を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
表示名 (Display Name)	デフォルトを受け入れるか、別の名前を入力します。

フィールド	設定
ユーザーの内線番号を継承 (Inherit User's Extension)	電話機 1 で MWI を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。

- ステップ 11 [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 12 [編集 (Edit)] メニューで、[転送オプション (Transfer Options)] を選択します。
- ステップ 13 [転送オプション (Transfer Options)] ページで、アクティブなオプションを選択します。
- ステップ 14 [転送オプションの編集 (Edit Transfer Option)] ページの [転送アクション (Transfer Action)] で、[内線番号 (Extension)] オプションを選択し、電話機 1 の内線番号を入力します。
- ステップ 15 [転送タイプ (Transfer Type)] フィールドで、[スイッチヘリリースする (Release to Switch)] を選択します。
- ステップ 16 [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ 17 Cisco Unity Connection Administration ウィンドウを最小化します。
- Cisco Unity Connection Administration ウィンドウは後の手順で再度使用するため、閉じないでください。
- ステップ 18 Real-Time Monitoring Tool (RTMT) にサインインします。
- ステップ 19 [Unity Connection] メニューで、[ポートモニター (Port Monitor)] を選択します。[ポートモニター (Port Monitor)] ツールが右側のペインに表示されます。
- ステップ 20 右側のペインで、[ポーリングの開始 (Start Polling)] を選択します。[ポートモニター (Port Monitor)] には、発信したコールを処理しているポートが表示されます。

リリース転送を使用した外線コールをテストする

- ステップ 1 電話機 2 で、外線に接続するために必要なアクセスコードを入力し、外部の発信者が Unity Connection に直接ダイヤルするために使用する番号を入力します。
- ステップ 2 [ポートモニター (Port Monitor)] で、このコールを処理するポートをメモします。
- ステップ 3 ガイダンスが再生されたら、電話機 1 の内線番号を入力します。ガイダンスが再生されるということは、ポートが正しく設定されていることを意味します。
- ステップ 4 電話機 1 が鳴り、電話機 2 で呼び出し音が聞こえることを確認します。呼び出し音が聞こえるということは、Unity Connection がコールを正しくリリースし、電話機 1 に転送したことを意味します。
- ステップ 5 電話機 1 を応答しないままにして、コールを処理するポートの状態が「アイドル」に変わることを確認します。この状態は、リリース転送が成功したことを意味します。
- ステップ 6 電話システムが待機するように設定されている呼び出し回数の後で、コールが Unity Connection に転送され、テストユーザーのグリーンティングが再生されることを確認します。グリーンティングが再生されるということは、電話システムが未応答のコールとコール転送情報を Unity Connection に転送し、Unity Connection は情報を正しく解釈したことを意味します。

- ステップ7** [ポートモニター (Port Monitor)] で、このコールを処理するポートをメモします。
- ステップ8** テストユーザーにメッセージを残して、電話機2を切ります。
- ステップ9** [ポートモニター (Port Monitor)] で、コールを処理するポートの状態が「アイドル」に変わることを確認します。この状態は、コールが終了したときにポートが正常に解放されたことを意味します。
- ステップ10** 電話機1のMWIがアクティブになっていることを確認します。アクティブになったMWIは、電話システムとUnity Connectionが正常に統合され、MWIをオンにすることを意味します。
-

メッセージを再生する

- ステップ1** 電話機1から、Unity Connectionの内部パイロット番号を入力します。
- ステップ2** パスワードの入力を求められたら、テストユーザーのパスワードを入力します。パスワードのリクエストが聞こえたということは、電話システムが必要なコール情報をUnity Connectionに送信し、Unity Connectionが情報を正しく解釈したことを意味します。
- ステップ3** テストユーザーの名前の録音が再生されることを確認します（テストユーザーの名前を録音しなかった場合は、電話機1の内線番号が再生されます）。録音名が再生されるということは、Unity Connectionが内線番号によってユーザーを正しく識別したことを意味します。
- ステップ4** メッセージの再生
- ステップ5** メッセージを聞いたら、そのメッセージを削除します。
- ステップ6** 電話機1のMWIが非アクティブになっていることを確認します。非アクティブになったMWIは、電話システムとCisco Unity Connectionが正常に統合され、MWIをオフにすることを意味します。
- ステップ7** 電話機1を切断します。
- ステップ8** [ポートモニター (Port Monitor)] で、コールを処理するポートの状態が「アイドル」に変わることを確認します。この状態は、コールが終了したときにポートが正常に解放されたことを意味します。
-

管理された転送を設定する

- ステップ1** Cisco Unity Connection Administrationのテストユーザーの[転送オプションの編集 (Edit Transfer Option)] ページで、[転送タイプ (Transfer Type)] フィールドで[転送の監視 (Supervise Transfer)] を選択します。
- ステップ2** [呼び出し回数 (Rings to Wait For)] フィールドに**3**と入力します。
- ステップ3** [保存 (Save)] を選択します。
- ステップ4** Cisco Unity Connection Administration ウィンドウを最小化します。
- Cisco Unity Connection Administration ウィンドウは後の手順で再度使用するため、閉じないでください。
-

管理された転送をテストする

- ステップ 1 電話機 2 で、外線に接続するために必要なアクセスコードを入力し、外部の発信者が Unity Connection に直接ダイヤルするために使用する番号を入力します。
- ステップ 2 [ポートモニター (Port Monitor)] で、このコールを処理するポートをメモします。
- ステップ 3 ガイダンスが再生されたら、電話機 1 の内線番号を入力します。ガイダンスが再生されるということは、ポートが正しく設定されていることを意味します。
- ステップ 4 電話機 1 が鳴り、電話機 2 で呼び出し音が聞こえないことを確認します。代わりに、電話システムがコールが保留中であることを示す通知 (音楽など) が再生されます。
- ステップ 5 電話機 1 を応答しないままにして、コールを処理するポートの状態が「ビジー」のままであることを確認します。この状態で、保留中であるという通知が聞こえた場合は、Unity Connection が転送を監視していることを意味します。
- ステップ 6 呼び出し音が 3 回鳴った後、テストユーザーのグリーティングが再生されることを確認します。グリーティングが再生されるということは、Cisco Unity Connection が監視転送コールを正常に呼び戻したことを意味します。
- ステップ 7 グリーティング中に電話機 2 を切ります。
- ステップ 8 [ポートモニター (Port Monitor)] で、コールを処理するポートの状態が「アイドル」に変わることを確認します。この状態は、コールが終了したときにポートが正常に解放されたことを意味します。
- ステップ 9 [ポーリングの停止 (Stop Polling)] を選択します。
- ステップ 10 RTMT を終了します。

テストユーザーを削除する

Unity Connection が Cisco Unified CM 認証または暗号化用に設定されている場合は、次の手順を実行します。

- ステップ 1 Unity Connection Administration で、[ユーザー (Users)] を展開し、次に [ユーザー (Users)] を選択します。
- ステップ 2 [ユーザーの検索 (Search Users)] ページで、テストユーザーの左側にあるチェックボックスをオンにします。
- ステップ 3 [選択項目の削除 (Delete Selected)] を選択します。

Cisco Unified CM の認証と暗号化をテストする

- ステップ1 電話機 1 から、Unity Connection の内部パイロット番号をダイヤルします。
 - ステップ2 電話機の LCD に認証アイコンや暗号化アイコンが表示されていることを確認します。
 - ステップ3 電話機 1 を切断します。
-

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。